

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1617 号

食道癌における血中循環腫瘍細胞測定と予後の評価

(Evaluation of the circulating tumor cell (CTC) measurement and prognosis in esophageal cancer)

北野 裕巳 (きたの ひろみ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

食道癌は他の癌と比べて予後不良の疾患であり、近年生活習慣の変化に伴い増加傾向である。術前検査において遠隔転移を認めなかった症例でも、根治手術後数年のうちに再発することも多々みられる。再発形式は様々な形式をたどるが、リンパ節廓清を伴う根治手術後における再発形式では血行性転移が重要な予後因子の一つとなる。

現在、血行性転移のマーカーとして腫瘍マーカー (SCC や CYFRA など) があるが、癌細胞の存在を証明するために確立された検出方法はない。

近年、乳癌や前立腺癌、大腸癌において注目されている血行性転移の予後評価の因子としてセルサーチシステムを用いての血中循環腫瘍細胞 (CTC) が注目されているが、食道癌においても CTC が予後評価の因子となり得るか評価を行った。

症例は順天堂大学で 2013 年 4 月から 2014 年 5 月までの間に治療を行った症例のうち当研究に同意の得られた 45 例について評価を行った。評価項目は無増悪期間や全生存期間をはじめとする予後に影響しうる項目 (組織型・病変部位・深達度・リンパ節転移・進行病期・脈管侵襲・腫瘍マーカー) に関して検定を行った

検定の結果 CTC が直接予後に影響している結果は得られなかったが、腫瘍マーカーである CYFRA との相関を認めた。今後も継続して評価を行っていく必要があるが、CTC が CYFRA と同様に食道癌における予後を予測しうる因子となりうる可能性が示唆された。